

第1回「21世紀のライフスタイルを考える」

市民運動フォーラム実行委員会・委員長 梶原光恵

「21世紀のライフスタイルを考える」の第1回として秋晴れの日、麻布区民センターに吉津耕一氏を迎えた。参加者もご夫婦が三組もあり“ガラガラにっぽん”の女性の姿も多く和やかな気持ちの良い雰囲気であった。

吉津氏は我々が農業に抱いているイメージを見事に一刀両断にしてくれた。農政に金がかかると言っても一部の農協や養蚕業者・米の検査官の件費に消えていくだけで、大方の農民には一銭も入らないとか、農民の数が減っていると言うのも嘘で、殆どどの農家が兼業農家になったけれど農業は続けているそうである。又、零細農家ほど土地を売らず大規

模農家ほど経営に失敗して土地を手離しているため農林省が考えているような大規模経営は日本では無理だそうだ。

詳細は千葉の高橋さんが記しておられるから省くが、講演内容も最後まで充実し、非会員の方からも賛辞を頂戴した。講演のあと近くの居酒屋で吉津氏を囲み更に話しが盛上った。来春4月中旬には吉津氏を訪ねて福島県只見町へ泊旅行を計画している。「たかもく」の都会人の為の家を見学したり農業の実態を垣間見、夜は吉津氏達と酒を交えて語り明かしたい。

誰でも参加OK！ 一緒に行きましょう。

市民による自由討論会「今回の選挙はおかしいぞ！」

大衆運動特別委員会・委員長 小枝 尚

【日時】1996年11月29日（金）17:30～21:00

【会場】すみだ産業会館・9階会議室

（JR錦糸町駅南口前・丸井百貨店内）

【主催】首都圏市民会議

【出席】37名（内非会員6名）

【司会・進行】萩野谷敏明（神奈川県）

開会宣言後、萩野谷作成の「政治と選挙の動き」について概略の解説の後、今回の総選挙で感じたことの各参加者の意見発表の後途中10分を挟んで自由討論に入った。

各意見は、選挙結果の感想・分析から小選挙区比例代表制度への賛否両論から、選挙民の資質そして戦後教育に対する悲憤慷慨に至るまで多岐に渡ったが各発言の要旨は下記の通りである。

【選挙結果について】

小選挙区比例代表制度の導入の目指した一政策を争うこと—二大政党による政権交代—選挙資金の軽減—の何れもその目的を達していない。寧ろ選挙区が小さくなった分ドブ板選挙化してよけいに費用がかさんだ。政策に関しても〔消費税率5か3か〕又どの政党も〔行政改革〕のお題目だけでその具体的施策提示のないままで選挙民として選択のしようがなかったし地元利益誘導にはしる候補者の狭隘化が進んだ。

事前に〔自民党優位〕の新聞報道が世論誘導を行い〔自民党勝利〕の結果をもたらしたのでは？

新進党の性格がはっきりしない現状では多政党乱立の中で自民党勝利は国民のバランス感覚の現れ。

【小選挙区比例代表制度について】

<賛成論>任期中の働きによって容易に交代させられる／人柄がよく見える／地元のことがよく分かるから良い／論点がはっきりした選挙演説であった。

<反対論>ドブ板選挙で費用が余計かかる／地元への利益誘導と成り国政全般に目配りをしなくなる／供託金没収の人が比例区で当選してしまうことは納得いかない／市議員より小さい選挙区はおかしい。

<その他>比例代表は全国区にすべきである（反対意見あり）／比例代表は得票に比例して投票数を与えるのが良い／当選後の政党移動は禁止が当然、選挙民愚弄視の現れ／比例の名簿順位は選挙民の意見で決める／名簿順位発表を早くし投票の判定基準とする。

【民主党の伸び悩んだわけ】

急造の政党であって政策（特に、外交・防衛・財政再建・日本の歴史観）について不明瞭・不確定の部分が多かった／旧社会党黨員や行革推進に疑問のある人の入党を認めた事により性格を不透明にしてしまった／菅氏の行動に疑問あり（大臣不辞职）。

【その他の意見】

一票の格差をつめるべきである（限り無く1対1とすべき・筆者）／自民党の勝利は野党の不甲斐なさによる／真に国家・国民を考える政治家皆無。